

## 資料

### 群馬県立自然史博物館宮前俊男コレクションの顕著な尾瀬産維管束植物標本

大森威宏

群馬県立自然史博物館: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**要旨:** 群馬県立自然史博物館に寄贈された宮前俊男コレクションの中から、尾瀬初記録のオオカラクサイヌワラビが見いだされた。また、同氏が作成した植物目録(宮前, 1981)により尾瀬にあることが最初に発表された5種と、後に群馬県内で発行された植物目録や報告書で発表された6種の維管束植物標本も見いだされた。

**キーワード:** 群馬県尾瀬管理保護センター, 維管束植物標本, 目録

### Notable vascular plant specimens from Oze, found in Toshio Miyamae collection, Gunma Museum of Natural History

OHMORI Takehiro

Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan  
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**Abstract:** *Athyrium x tokashikii* Sa. Kurata is newly recorded from Oze, collected by Toshio Miyamae. Specimens of five vascular plant species from Oze were found, and they were firstly listed by Miyamae (1981). And six species which were lately recorded in Oze in the literature published in Gunma were also found in the collection.

**Key Words:** Oze preservation center, vascular plant specimens, plant list

#### はじめに

尾瀬のまとまった植物目録は、第1次尾瀬総合学術調査のときに作成され(Hara and Mizushima, 1954)、第2次尾瀬総合学術調査で、その補足がなされた(Hara, 1982)。一方、地元研究者や尾瀬を管理する環境庁(当時、現在は環境省)によっても植物目録が作成され、また、地元県の植物誌でも尾瀬産の植物がリストアップされた(宮前, 1981; 日本自然保護協会, 1982; 菊地・須藤, 1991; 福島県植物誌編さん委員会(編), 1987; 戸部ほか, 1987)。中でも1981年に宮前俊男氏により発表された尾瀬産植物目録は、第1次尾瀬総合学術調査後に作成された最初の目録である(宮前, 1981)。宮前俊男氏は、1966年に開設された群馬県尾瀬管理保護センターの開設初期に、植物分布調査に携わり、多くの植物標本を残してきた。また、その中には1987年に発行された群馬県植物誌改訂版や、後に群馬県内で出版された目録の根拠とされたものも含まれると考えられる(戸部ほか, 1987; 菊地・須藤, 1991)。

宮前(1981)や、後に群馬県内出版物で記録された植物

の中には尾瀬総合学術調査の植物目録(Hara and Mizushima, 1954; Hara, 1982)に記録がないものが含まれ、さらに、その後の文献でも記録がないものも含まれる。しかし、宮前氏の標本は私蔵または尾瀬自然保護センターから引き継いだ群馬県尾瀬保護管理保護センターに保管されたままの状態であった。さらに、宮前(1981)やその後の群馬県内で発表された植物目録は証拠標本を引用しなかったためにその根拠については不明な点があった。2010年に宮前俊男氏所蔵標本が群馬県立自然史博物館に寄贈され、その後の標本整理の中で、同コレクションの中に群馬県尾瀬自然保護センターで収集した標本が見いだされ、それらが宮前(1981)の根拠となる可能性が高いことが判明した。本稿では群馬県立自然史博物館宮前俊男コレクションの中から、今回の報告が尾瀬初記録の植物のほか、宮前(1981)及びその後の群馬県内出版物が尾瀬初記録となった植物について紹介する。なお、本稿に記述した標本はすべて群馬県立自然史博物館(GMNHJ)に収蔵してある。

尾瀬初記録の植物

オオカラクサイヌワラビ *Athyrium x tokashikii* Sa.Kurata

オオカラクサイヌワラビ (メシダ科) はカラクサイヌワラビ *Athyrium clivicola* Tagawa と ヤマイヌワラビ *Athyrium vidalii* (Franch. et Sav.) Nakai の雑種である。宮前俊男氏が尾瀬の鳩待峠-山ノ鼻間で1969年9月20日に採集し、カラクサイヌワラビとして同定された標本を新たに確認したところ、少数ながらかぎ形の胞膜をもつこと、一部の羽片や小羽片前側の耳状突起が低い点から本雑種と同定した。

採集地一帯はブナ帯の沢沿いや、沢に沿った斜面に位置し、両親種のカラクサイヌワラビ、ヤマイヌワラビともに普通に見られる。このため本雑種の生育は十分予想される。ただし、採集地は尾瀬の入山から核心地域に至る最も登山者数が多い地区であり、時期によっては立ち止まって観察することさえ困難である。出現の可能性が高いにもかかわらず、この標本以外の記録がない理由の一つにこのよう

な地理的な特性があると考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; between Hatomachi Pass and Yamanohana, 20 Sep. 1969, Toshio Miyamae s.n. (GMNHJ-BP-20270) .

宮前 (1981) が尾瀬初記録となった植物

ヤマトユキザサ *Smilacina viridiflora* Nakai

ヤマトユキザサ (キジカクシ科) は外見上ユキザサ *Smilacina japonica* A. Gray に類似するが、雌雄異株であること、柱頭が明確に外側に曲がることで区別できる。尾瀬ではユキザサも普通に分布し、また燧ヶ岳の亜高山帯などにはヒロハユキザサ *Smilacina yesoensis* Franch. et Sav. も分布し、従来これらと混同されていたと考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture;



図1. オオカラクサイヌワラビ  
Fig.1. *Athyrium x tokashikii* (GMNHJ-BP-20270)



図2. イワベンケイ  
Fig.2. *Rhodiola rosea* (GMNHJ-BS-22907)

Katashina Vill.; Oze; Mt. Shibutsu, 17 July 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-26386).

### ピロードスゲ *Carex miyabei* Franch.

ピロードスゲ（カヤツリグサ科）は、湿地に生育する中型のスゲで、本州中部以北に分布し、尾瀬の山麓域にあたる利根沼田地域にも広く分布する。宮前氏が尾瀬ヶ原にて採集した標本がコレクション整理中みつかった。その後現地調査を行った結果、ピロードスゲは、尾瀬では東電尾瀬橋脇の小湿原に分布するのみであることがわかった。過去の総合学術調査で本種の記録がないことは、本種が尾瀬の中で局地的な種で、かつ各入山口から遠い場所に分布することが原因と考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Oze; Ozegahara, June 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-24616).

### ヒロハノコメススキ *Deschampsia cespitosa* (L.) P. Beauv. var. *festucifolia* Honda

宮前（1981）は、ヒロハノコメススキ（イネ科）の別名であるミヤマコメススキを目録に記録した。ヒロハノコメススキは、至仏山高天原の湿った砂礫地に現在も生育している。至仏山は稀産の蛇紋岩地の植物が多数生育し、高天原はそれらが集中する地域である。このため、植生調査などの特定の目的がない限り、本種のような広汎に分布する種は見落とされる可能性がある。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; Mt. Shibutsu, 18 June 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-22777).

### イワベンケイ *Rhodiola rosea* L.

宮前俊男コレクションには、尾瀬の三条ノ滝で採集されたイワベンケイ（ベンケイソウ科）の標本が含まれる。こ



図3. リンネソウ  
Fig.3. *Linnaea borealis* (GMNHJ-BS-27943)



図4. タマミクリ  
Fig.4. *Sparganium glomeratum* var. *glomeratum* (GMNHJ-BS-28112)



の標本は当時群馬県自然尾瀬保護センターの梅沢照二氏が採集したものである。尾瀬総合学術調査や環境庁の目録、さらに福島県植物誌に尾瀬のイワベンケイの記録はない (Hara and Mizushima, 1954; Hara, 1982; 日本自然保護協会, 1982; 福島県植物誌編さん委員会 (編), 1987)。群馬県自然尾瀬センターは、地元片品村の尾瀬の地理に精通した人が職員として起用されており、この標本も一般の人が行けないような地点で採集したことが予想される。三条ノ滝の観瀑歩道は一時期崩落により通行止めになり、その後歩道と観瀑台が整備されて、それ以外の所は危険防止のため立入ができなくなった。そのため、現在三条ノ滝のイワベンケイは再確認が困難な状況にあると考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Fukushima Prefecture; Hinoemata Vill.; Oze; Sanjo-no-taki Waterfall, 24 Aug. 1969, Teruji Umezawa *s.n.*, (GMNHJ-BS-22907).

### リンネソウ *Linnaea borealis* L.

リンネソウ (スイカズラ科) は尾瀬総合学術調査の報告書から記録がない (Hara and Mizushima, 1954; Hara, 1982) が、至仏山にあることは地元では知られていた。宮前俊男コレクションの中から本種の標本が確認された。リンネソウは至仏山の中でも限られた場所にしか分布しない上に、個体数も少ない。このため、事前に情報がなければ、至仏山の中でリンネソウを見つけることは困難で、このことが記録漏れに直接つながったものと考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; Mt. Shibutsu, 1969 date unknown, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-27943).



図5. オニアゼスゲ (キリガミネスゲ)  
Fig.5. *Carex x leiogona* (GMNHJ-BS-22866)



図6. クリンユキフデ  
Fig.6. *Bistorta suffulta* (GMNHJ-BS-29294)

## 県内出版物が尾瀬初記録となった植物

### タマミクリ *Sparganium glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L. M. Newman var. *glomeratum*

尾瀬のタマミクリ（ガマ科）は、尾瀬保護専門委員による尾瀬ヶ原の植生の報告の中で2013年に初めて報告された（鈴木ほか, 2013）。しかし、1969年に尾瀬ヶ原下田代で宮前氏により本種が採集されていたことが明らかになった。標本を包む新聞紙にはタマミクリの文字があり、タマミクリとして認識していたこともわかった。ただし、宮前（1981）にはタマミクリの記録がない。これは、宮前氏が採集標本を見落としていたためか、後にホソバタマミクリ *S. glomeratum* (Beurl. ex Laest.) L. M. Newman var. *angustifolium* Graebn. に含めたためか、経緯は不明である。尾瀬のタマミクリは、六兵衛堀や下ノ大堀川、ヨッピー川などの流水中に生育し、池塘に生育するホソバタマミクリとは生育環境を異にする。また、尾瀬のタマミクリは流水中に沈水状態で生育し、開花結実することはめったにない。このため、過去の植生調査ではセキシウモ *Vallisneria natans* (Lour.) H. Hara として扱われた（宮脇・藤原, 1970）。また、通常開花結実した植物が得られないため、標本採集の対象にならなかった。このことが尾瀬のタマミクリの報告が遅れた原因と考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Fukushima Prefecture; Hinoemata Vill.; Oze; Rokube-e-bori Riv., Shimotashiro Mire, 20 July 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-28112).

### オニアゼスゲ *Carex x leiogona* Franch.

オニアゼスゲ（キリガミネスゲ：カヤツリグサ科）は、トマリスゲ *Carex middendorffii* F. Schmidt とアゼスゲ *C. thunbergii* Steud. var. *thunbergii* の雑種と推定され、従来はトマリスゲの変種として扱われてきた。宮前氏により、尾瀬ヶ原北部の泉水田代でオニアゼスゲ *Carex thunbergii* Steud. var. *appendiculata* (Trautv. et C.A.Mey.) Ohwi として採集された標本を再検討した結果、果実が熟す前ながらも、雌花穂が大きく雌鱗片が長く、アゼスゲやオニアゼスゲより広い硬質の葉をもつこと、雌花穂がトマリスゲより明らかに長いことから、オニアゼスゲと同定された。宮前氏がオニアゼスゲとして認識していなかったため、宮前（1981）にはオニアゼスゲの記録はない（オニアゼスゲの記録もない）が、後に菊地・須藤（1991）がオニアゼスゲを記録している。また、福島県側でも尾瀬のオニアゼスゲの記録がある（福島県植物誌編さん委員会（編）、1987）泉水田代は周辺部に

低層湿原が発達し、北縁はアゼスゲ群落が発達する。一方泉水田代の西側は扇状地扇端上に高層湿原植生もみられ、尾瀬ヶ原の中では珍しくアゼスゲとトマリスゲが相接して分布している。そのため、泉水田代は両者が容易に交雑しうる尾瀬ヶ原では数少ない地点と言える。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; Sensui-tashiro, Ozegahara, 4 June 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-22866).

### シロヤナギ *Salix dolichostyla* Seemen subsp. *dolichostyla*

尾瀬ヶ原拋水林の大型のヤナギはコゴメヤナギ *Salix dolichostyla* Seemen subsp. *serissifolia* (Kimura) H. Ohashi et H. Nakai として報告されてきた（Hara and Mizushima, 1954）。その後須藤（2001）によって尾瀬にシロヤナギが産することが報告された。宮前氏が1969年に尾瀬ヶ原の背中アブリ田代で採集したヤナギの標本（GMNHJ-BS-22147）を改めて同定した結果、シロヤナギであることが判明した。尾瀬のシロヤナギは葉が短く、また、葉裏の毛が比較的少ないものもあり、これらは子房が残る標本でない限りコゴメヤナギと同定されるものである。尾瀬は日光・赤城山と谷川岳・奥会津にはさまれた、コゴメヤナギとシロヤナギの分布移行帯にあることが同定を難しくしていると考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; Senakaaburi-tashiro, Ozegahara, 3 Aug. 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-22147).

### クリンユキフデ *Bistorta suffulta* (Maxim.) H. Gross

クリンユキフデ（タデ科）は尾瀬周辺地域では比較的少雪地に多く分布する植物である。山ノ鼻－柳平間で採集された標本の中からクリンユキフデが見いだされた。宮前氏の採集記録から山ノ鼻に接する猫又川で採集された標本と判断できる。宮前（1981）は本種を記録していないが、同時期に編集作業が行われていた群馬県植物誌改訂版（戸部ほか, 1987）には本種が記録され、後に菊地・須藤（1991）もこの記録を引用したと考えられる。クリンユキフデの生育地は一般の人が立ち入る場所ではなく、過去の歴史をさかのぼっても日崎乗越から山ノ鼻に至るルート（廃道）以外では通行することはあり得ない地点である。過去の尾瀬総合学術調査でも柳平・カツキ堀への行程を除けば調査経路となり得ない。このことから、本種は尾瀬では地元の関係者以外、採集機会が非常に少ないと考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; N. of Yamanohana, Nekomata River, 28 July 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-29294).

### イケマ *Cynanchum caudatum* (Miq.) Maxim.

イケマ(キョウチクトウ科)は、尾瀬では菊地・須藤(1991)によって初めて記録された種である。宮前氏も尾瀬ヶ原の北に位置する景鶴山で、1969年にすでに採集していたことが判明した。菊地・須藤(1991)は尾瀬における本種の分布を「尾瀬ヶ原周辺」としており、また、その後も景鶴山麓から記録されているため、本種は景鶴山麓で採集されたと考えられる。本種の分布域は、現在立入禁止となっており、しかも尾瀬の入山口から最も遠い位置にあることが、地元関係者以外認識されてこなかった背景にあると考えられる。

**Specimen examined:** Japan; Honshu; Gunma Prefecture; Katashina Vill.; Oze; Mt. Keizuru, 29 July 1969, Toshio Miyamae *s.n.* (GMNHJ-BS-28069 and 28070).

### 謝辞

群馬県立自然史博物館・宮前俊男コレクションは、同氏のご遺族から寄贈いただいたものである。宮前俊男氏のご遺族ならびに寄贈にあたっての仲介をいただいた阿部利夫氏には感謝する次第である。また、本報告を含む尾瀬産植

物標本の整理・目録作成は第4次尾瀬総合学術調査の一環として環境省生物多様性保全推進事業費の補助を受けて実施された。感謝の意を表する次第である。

### 引用文献

- 福島県植物誌編さん委員会(編, 1987): 福島県植物誌 1987. 福島県植物誌編さん委員会, いわき, 481pp.
- Hara, H. (1982): Vascular plants of the Ozegahara moor and its surrounding district. *In* H. Hara et al. (eds.) *Ozegahara. Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan.* Japan Society for the Promotion Science, Tokyo, p. 123-133.
- Hara, H. and Mizushima, M. (1954): List of vascular plants of the Ozegahara Moor and its surrounding districts. *In* *Scientific Researches of the Ozegahara Moor* (eds.) Scientific research of the Ozegahara Moor. Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo, p. 428-479.
- 菊地慶四郎・須藤志成幸(1991): 永遠の尾瀬 自然とその保護. 上毛新聞社, 前橋, 235pp.
- 宮前俊男(1981): グリーンブックス 78 尾瀬の植物観察. ニュー・サイエンス社, 東京, 109pp.
- 宮脇 昭・藤原一絵(1970): 尾瀬ヶ原の植生. 国立公園協会, 東京, 152pp. +25 tables +3 figures.
- 日本自然保護協会(1982): 尾瀬 自然解説資料. 国立公園協会, 東京, 116pp.
- 須藤志成幸(2001): 尾瀬の植物分布とその生態の研究2 -フガクスズムシソウ等の新分布について-. 尾瀬の自然保護, (24): 51-55.
- 鈴木伸一・吉井広始・片野光一・大森威宏(2013): 尾瀬の植生と植物相XVIII -中田代の植生-1-. 尾瀬の自然保護, (35): 39-47.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸(1987): 群馬県自生高等植物目録. *In* 群馬県高等学校教育研究会生物部会「群馬県植物誌改訂版」編集委員会(編)群馬県植物誌 改訂版, 群馬県, 前橋, p. 153-393.